

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第 5 8 号

2 0 1 8 年 1 2 月 1 日

発行 中部学院大学 宗教委員会
中部学院大学短期大学部

〒501-3993
岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211

クリスマスに寄せて「神は我々とともに」

(マタイ 1: 18~2: 12)

高木 総平 (岐阜済美学院 宗教総主事)

この時期になると、クリスマス関係の本をよく見ます。『よくわかるクリスマス』という本を見ていたら、日本で最初に行われたクリスマスのことが載っていました。1552年のイエズス会のミサだそうです。興味深いのは、少し後1560年のクリスマスには、司祭から日本人信徒に劇をするように要請があり、信徒たちは一任されて多くの劇をしたそうです。たとえば、生まれたばかりのイエスのもとに羊飼いが訪ねていくものなの

です。まさに今も行われているページェントです。おもしろいのは、教会の中央に、金色のリンゴの実のついた木をおき、ルシフェルがエバを欺いたとの、アダムとエバの物語の劇をしたそうです。要するに、クリスマスに、人類最初の二人が神に背いたという劇をしたということで、クリスマスを祝う意味は、イエスがキリストとしてこの世界に来られたことであるとはっきり知っていたということです。その他には、日本的に言うなら大岡さばきの、ソロモン王の見事なさばきも劇にしたということです。それは、一人の赤ちゃんを巡り、二人の母親が登場し、どちらも我が子だと主張したことへのさばきです。剣で二つに切り分け、二人に分けようとの判定で、そんなことをしないでもう一人に与えてほしいと言った女が本当の母だということです。今でいう子どもの人権がないがしろにされたり、赤ん坊が多く亡くなる当時の日本でしたから、そのような劇で、キリスト教の考えを主張したのかもしれない。

今では、どちらもクリスマスに取り上げられる

ことはありません。でもこの二つの話も、クリスマスの本質と深いつながりがあるということです。アダムとエバの話では、神からの人間の離反を描いています。神と人との関係が切れ、人と人との関係が切れ、自分と自分の関係が切れることを罪と呼んでいます。人間の方から離反したというのが、この物語で、その後ずっと、イスラエルの人たちを通じて、神からの離反、それに対するさばきが繰り返し、繰り返し続きます。その罪は、周りの強大な国家の軋轢の中で、強く大きなものを志向し、小さな弱い存在を作りだし、また小さな弱い存在を圧迫するものでした。そのような中、真の救い主を待望する人たちがいたのです。



『教会カット集』より

この世界にイエスは遣わされたのです。それはまず神と私たちの関係を回復するためでした。私たちも神とつながり、神の子として生きることが許されたのです。神は、この世界を生み出し、成り立たせている命の源です。その神とつながることが、人にとってなくてはならないあり方だと、聖書は繰り返し語っています。そのあり方が、今日の言葉で言うと、「神は我々とともにおられる」ということなのです。

マタイによる福音書では、学者たち、伝統的には三人の博士たちは、イスラエルから言うと異邦の人たちで、自国では知者で魔術師のような立場で、社会的にも高い人たちだったようですが、弱小国にメシアが生まれると、はるばる旅してきたところから考えますと、自分たちの宗教や立場では生きることの困難さを抱え、弱小国であるイスラエルに誕生するキリストに救いを求めたものと

思われます。イスラエルから言うと、この人たちは真の神ではなく、魔術のようないかがわしいものによっている蔑視の対象でありました。そのような周辺の人たちが、生まれたばかりのキリストのところに赴いた意味はとても大きいのです。小さな、弱い存在に目を、心を注がれる神の御心がここにもあります。

人間はそんなに強いものではありません。強そうな人も、強がっていたり、その時が順風満帆でうまくいっているだけだとも言えるのです。うまくいかないことや失敗が重なると、そうはいきません。また人間の努力や頑張りではどうしようもない現実もあります。多くの限界も持っています。小さな、弱い面をたくさん抱えています。そのような人間とともにいてくださる方がいるということです。この時期、そのような年齢になったからでしょうか、喪中の挨拶状が例年になく届いています。中には、悲しみ、嘆きが伝わってくるようなものもあります。そのような嘆き、悲しみ、寂しさが渦巻いているただ中に、イエスはキリスト

として来られました。そして今も世界には、多くの争いや対立、小さく弱い存在がひどい目に遭うような悲惨なことが絶えず起こっています。闇が覆っています。そこにキリストが来られた、私たちとともにいてくださる方として来られたということ、そのことを小さい子どものような気持ちで感じるクリスマスでありたいと思います。

最後に詩人、坂田寛夫さんの詩を紹介します。

坂田寛夫 「クリスマスだから」

クリスマスだから かんがえる
たくさんたくさん たくさん
かなしんでいる ひとのこと

それから すこし かんがえる
どうしてどうして どうして
かなしいことが あるのかな

クリスマスだから かんがえる
かなしんでいる ひとのこと

Celebrating Christmas, the Filipino way

コラゾン加藤 (子ども教育学科)

The Philippines being one of the largest Catholic countries in the world is probably observing Christmas much more than any other countries in Asia. The celebration of Christmas in the Philippines is firmly under the influence of its colonizers. Christmas was brought by the spread of Christianity when Spain colonized the country for three centuries. Similarly, the westernization of the country under the United States of America for fifty years strongly influenced many cultures including Christmas.

So how do Filipinos observe Christmas?

The most extended Christmas Season: Do you know that when the month of September arrives, Filipinos are already preparing to celebrate Christmas festivities? The month of September is the beginning of what Filipinos call the "Ber Months" -September, October, November, and finally December! From September, people start displaying Christmas decorations and playing Christmas songs. These are highly observed in

public places such as shopping malls, restaurants and "local carenderias," supermarkets and public



フィリピンのクリスマスの飾り「パロール」

markets. All radio stations are playing their favorite Christmas tunes at this time, too! The Filipinos well known local public transportations like-jeepneys, tricycles, and tri-sikads-are richly adorned with Christmas embellishments. These vehicles even compete by playing Christmas songs louder to attract passengers. The Christmas celebrations for Filipinos continue until January 6-The Day of Epiphany or Three Kings Day. In most instances, Filipino families would store their Christmas decorations after this day.

Going to church: For most Filipinos who are born again Christians, celebrating the birth of Jesus Christ is the main spirit of Christmas. The churches are busier than ever of Christmas cantatas. Most Filipino Christians are also Catholics, so the tradition of "Simbang Gabi" or

“Misa de Gallo” is highly practiced. Many Filipinos go to church at dawn for nine consecutive days. It starts on December 16th at 4:00 a.m. and ends on December 24th at 10:00 pm. People are excited about this tradition because they can treat themselves to traditional delicacies like “Bibingka, Suman, Suman Latik, Ibos, Puto, Sundol” and many more. Local vendors are waiting outside the church for churchgoers, and the locals are looking

forward to this season to enjoy these traditional delicacies. As for the sellers, it is the season to seize to earn extra income to celebrate an abundant Christmas with their families.

Christmas decorations, Christmas carols, and food: Other than the Christmas Tree and all its frills, one of the most adorable traditional decorations is the Christmas lantern called “Parol.”

(4 ページ下へ)

「クリスマスの思い出」

小学校1年生の時、教会の幼稚園出身のクラスメイトがいました。毎日一緒に遊んでいた私は、いつか彼女が通う教会の幼稚園の日曜学校にも一緒に行く様になりました。日曜学校では、クリスマスになると子どもたちのためのクリスマス会が開かれました。初めて参加したクリスマス会は、キラキラ光る大きなクリスマスツリーが飾ってあり、お菓子のプレゼントやゲームもありとても楽しいもので、あまりの楽しさに『生まれ変わったらこの教会の幼稚園に入るんだ!』とさえ思いました。2年生になり、彼女とはクラスが離れ遊ぶなくなって、私の日曜学校通いも終わりを迎えました。クリスマスは私にとって特別な日となったのでした。

それから、何十年と経ち、結婚して息子が生まれ、家族で私が生まれ育った街に帰ってきました。

息子が3歳になり幼稚園を決める時思い出したのが、あの教会の幼稚園でした。『私が生まれ変

留田 由美 (看護学科)

わらなくても子どもを教会の幼稚園に入れよう!』と迷わず息子を教会の幼

稚園に入れることにしました。教会の幼稚園は私が想像していた通りの素敵なおとこでした。クリスマスの時期には毎年盛大に「クリスマス祝会」が行なわれ、年長さんの中からサンタクロース役の子どもが一人選ばれるのですが、息子がなんとサンタクロースに選ばれたのです。(単に身長が高く、大きな声が出せるということだったので)私の憧れだった教会の幼稚園のクリスマスに息子が新しい思い出を作ってくれました。

息子が大人になった今でもクリスマスの時期になると、息子のサンタクロースの話で盛り上がっています。今はもう、教会の幼稚園はなくなりましたが、私と家族のクリスマスの大切な思い出です。



「2018年度中部学院大学・中部学院大学短期大学部クリスマス献金」

今年もイエス・キリストのご降誕をお祝いするクリスマスの季節がやってきました。クリスマスは、キリストがご自身のすべてを人々の幸せのためにささげつくしたことから、少しでも人々の幸せのためにささげることを実践する季節です。今年は災害被災地として、水害被災地の西日本および関市、大震災被災地の北海道、またインドネシアの地震被災地を覚えたいと思います。思いを込めてご献金ください。

募集期間 : 2018年11月28日(水)～12月26日(水)

献金予定先 : 水害被災地の西日本、関市、大震災被災地の北海道を覚えて 近隣の施設を覚えて : 岐阜いのちの電話、野宿生活支援の会ほか、 海外の被災地等を覚えて : インドネシアの地震被災地など

関キャンパス総務課カウンター・各務原キャンパス事務室に設置していますクリスマス献金箱に献金ください。ご協力をよろしくお願いたします。

2018年度 クリスマス礼拝

「地に平和」

日本基督教団名古屋桜山教会 牧師 田中 文宏 先生



日時：12月20日(木) 11:00~12:15

(第2時限の講義は行いません。)

会場：関キャンパス グレースホール

＜奨励要旨＞

今年もクリスマスの季節を迎えました。世界には紛争が絶えず、地球の温暖化にともなう異常気象により各地に災害がもたらされています。住み慣れた家を失い、その日の食物にも窮する多くの人々がいることに心の痛みを覚えます。

救い主イエス・キリストの降誕を祝うクリスマスにあたり、小さな命が尊重される平和な世界の実現のために共に祈りを合せましょう。

今からおよそ二千年前、ユダヤのベツレヘムの馬小屋で救い主イエス・キリストは生まれました。救い主の誕生を最初に告げられたのは、宮殿の王様ではなくて、野宿をしていた貧しい羊飼いたちです。「あなたがたは、布にくるまって飼葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」(ルカ 2:12) 貧しい飼葉桶の乳飲み子には、世の宝も力もありません。しかし、小さく貧しい乳飲み子の中にこそ真の救い主のしるしがあると告げたのです。すると突然に天使の軍勢は高らかに賛美します。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」(ルカ 2:14) ここにはクリスマスに現わされた神の栄光が示されています。それは争いと憎しみの絶えない世界に真の平和をもたらすために生まれた救い主の栄光であります。

ところで、40年近くアフガニスタンとパキスタンで医療活動に従事してきたクリスチャンの中村哲医師は、早魃と急速に進む沙漠化の中で、現地の人達と共に井戸を掘り、灌漑用水路を建設してきました。水の確保と緑の大地の復活により多くの避難民が自分たちの村に帰ってくるようになってきました。貧しい現地の人達に寄り添い、共に生きる中村医師の歩みはキリストの愛を証しています。そこには民族や宗教の違いを超えて真の平和を創り出す救い主の栄光が現わされています。

＜講師プロフィール＞ 田中 文宏 (Fumihiro Tanaka) 1954年、兵庫県山間の温泉町に生まれる。中学生の頃より眼の病気に悩み、盲学校の教師を志して東京教育大学に学ぶ。卒業後、牧師を志して東京神学大学に入学。1981年、高知県・須崎教会牧師、須崎幼稚園園長。1988年に米国に留学し、ウェスタン神学大学、シカゴ神学大学で牧会カウンセリングを学ぶ。1991年、札幌・真駒内教会牧師、まこまない明星幼稚園理事長・園長。北海道いのちの電話研修委員。2016年より名古屋桜山教会牧師。現在、日本盲人キリスト教伝道協議会議長。

(3 ページ上段より) Christmas "Parols" are beautiful five-point star lanterns that adorn all houses of either rich or poor to spread the Christmas spirits. Christmas in the Philippines is never the same without a Parol!

In the Philippines, children love to sing Christmas carols, too. Children know that people

open their hearts to share and give with love during Christmas, so they sing carols from house to house armed with tin cans as accompaniments. In return, they collect coins and learn the value of sharing. Filipinos are crazy about Christmas, so expect much food.